

# 原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2025/09/16号

マーケットエッジ株式会社 小菅努



## 【現状確認】



## 供給過剰見通しで上値重い

NY原油先物相場は、1バレル=60ドル台前半で上値の重い展開になった。需給緩和見通しの織り込みが優勢の地合が続いている。石油輸出国機構（OPEC）プラスは9月7日の会合で、10月に日量165万バレルの自主減産の削減に着手することを合意した。日量13.7万バレルと規模は大きくないが、減産プログラムを断続的に削減する動きが、需給緩和見通しを強化している。また、国際エネルギー機関（IEA）が年後半に平均で日量250万バレルのペースで増加する見通しを示したこともネガティブ。

ただし、地政学環境の悪化に対する警戒感も強く、大きな値動きには発展しなかった。イスラエル軍は9月9日、カタールの首都ドーハで、ハマス代表団を標的とした攻撃を行った。また、ウクライナ和平協議が進展しない中、ウクライナとロシアの双方が攻撃を劇化させていることもポジティブ。米欧はロシア産石油に対する追加制裁の可能性を協議しており、ロシア産原油供給の先行き不透明感が高まっている。

米エネルギー情報局（EIA）発表の米石油在庫（9月5日時点）は、原油が前週比394万バレル増、ガソリンが146万バレル減、石油精製品が472万バレル増となった。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

## 原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

## 【展望】

## 需給緩和見通しでの値下がり続く、ロシア産供給リスクに注意

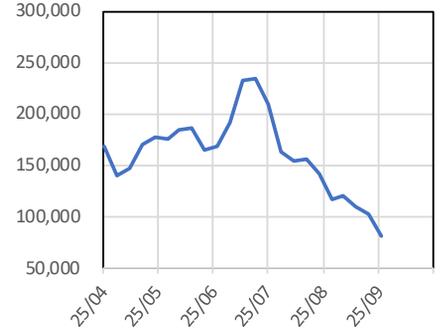
需給緩和見通しから戻り売り優勢の地合が続く見通し。ドライブシーズン終了で需要の端境期に移行しているが、このタイミングで石油輸出国機構（OPEC）プラスの供給水準は一段と切り上がり、需給緩和傾向は時間の経過とともに強化される見通し。中国が備蓄向けに購入を行っていることが、世界の商業在庫の積み増し圧力を限定するが、それでもマクロ需給要因だと値下がり傾向が維持されやすい。前週は国際エネルギー機関（IEA）が改めて大規模な供給過剰見通しを示したこともネガティブ。60.00ドルの節目を意識した展開が続く見通し。

ただし、地政学環境は依然として不安定であり、突発的な上昇リスクを抱えた地合が続く。9月12日には主要7カ国

（G7）財務相会合が開催されたが、ロシアに対する制裁も協議された模様だ。トランプ米大統領は、ロシア産原油を購入する中国やインドに対して関税を課すように、G7に要請しているとの報道もある。実際にロシア産の供給不安をさらに高めるような動きがみられた場合には、改めて一時的に上昇する可能性は想定しておきたい。

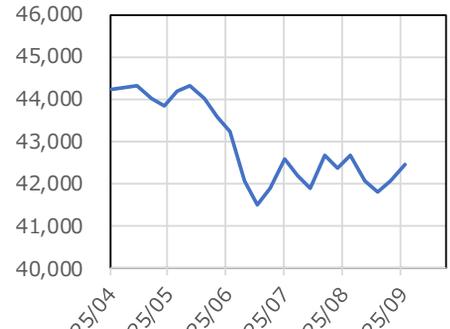
もっとも、過去数カ月のパターンだと地政学リスクの織り込みは一時的な上昇に留まりやすい。ロシア産原油供給を止めるのは現実的ではないことに加えて、OPECプラスは大規模な増産余力を抱えているため、中長期にわたって深刻な供給障害が発生するリスクは低い。今後も「需給緩和見通しの売り」と「地政学リスクの買い」を繰り返しつつ、徐々に値位置を切り下げていく展開が繰り返されやすい。上下双方に一方的な展開にはならないだろう。

(枚) NY原油先物 大口投機筋ネット建玉



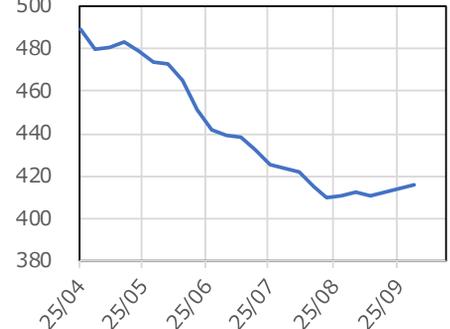
(出所) CFTCよりマーケットエッジ作成

(万バレル) 米原油在庫



(出所) EIAよりマーケットエッジ作成

(基) 米石油リグ稼働数



(出所) Baker Hughesよりマーケットエッジ作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレマー）をお読み下さい。

## 【ディスクレーマー（免責条項）】

本レポートは、本取引所がマーケットエッジ株式会社から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、マーケットエッジ株式会社に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、マーケットエッジ株式会社（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 マーケットエッジ株式会社（Marketedge Co., Ltd.）

【所在地】 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-18-1（古川ビル4F）

【URL】 <https://www.marketedge.co.jp/>

【電話】 TEL : 03-6661-9498 【E-mail】 [info@marketedge.co.jp](mailto:info@marketedge.co.jp)

## 小菅努（こすげ・つとむ）プロフィール

1976年千葉県生まれ。筑波大学社会学類卒。商品先物会社の営業本部、ニューヨーク事務所駐在、調査部門責任者を経て、2016年にマーケットエッジ株式会社を設立、代表に就任。金融機関、商社、事業法人、メディア向けのレポート配信、講演、執筆などを行う。

最新情報は  
ツイッターで

